

会 議 録

会議の名称	子育て支援計画策定委員会（第2回）
開催日時	平成14年7月24日（水） 午後1時30分から午後3時30分まで
開催場所	田無イングリッシュビル3階 第3会議室
出席者	（委員）有澤委員、安藤委員、片山委員、川又委員、武田委員、出川委員、古荘委員、本間委員、森田委員（欠席 田口委員） （子ども部会ファシリテーター）安部芳絵 （事務局）富田課長、原係長、田島 （コンサルタント）高屋、山領
議 題	（1）西東京市の子育て支援策の現状と課題の検討・整理 （2）市民交流会ほか市民参加調査の検討
会議資料	（配布資料） 1 西東京市の子育て・子育ての現状と課題 『西東京市の子どもの生活と家庭の実態・意向調査 報告書』より 2 西東京市の子育て・子育てに関する統計 3 子育て・子育てに関する西東京市の取組み 4 市民交流会ほか市民参加調査の方法とスケジュール（案） 5 子育て支援計画策定委員会委員名簿（第1回委員会資料1の訂正）
会議内容	発言者の発言内容ごとの要点記録

発言者名	発言内容
森田委員長	開会宣言 前回欠席された委員へ委嘱状をお渡しする。本来は市長からお渡しするものであるが、本日は課長からお渡しする。 - 富田課長が委嘱状を手渡す -
森田委員長	本日の午前中に子ども部会の第1回の集まりがあったので、会議を始める前に、子ども部会のファシリテーターである阿部芳絵さんをご紹介します。本日はオブザーバーとしてご出席いただいた。
安部	子育て支援計画に子どもたちの意見が反映されるよう、子ども部会で子どもたちの意見を引き出していくファシリテーターを努めさせていただく。よろしくお願ひする。
森田委員長	配布資料の確認を行う。 資料1が、西東京市の子育て・子育ての現状と課題 『西東京市の子どもの生活と家庭の実態・意向調査 報告書』より 資料2が、西東京市の子育て・子育てに関する統計 資料3が、子育て・子育てに関する西東京市の取組み 資料4が、市民交流会ほか市民参加調査の方法とスケジュール（案） 資料5が、子育て支援計画策定委員会委員名簿（第1回委員会資料1の訂正）である。
高屋	各資料を作成した意図を説明させていただきたいと思う。 資料1から資料4のうち、資料1から資料3は西東京市の子育て・子育ての現状及び課題についてまとめたものである。そして、資料4は作業部会が中心となって進めていく市民参加調査と策定委員会で開催する市民交流会をどのような方法とスケジュールで進めていくかまとめたものである。 資料1「西東京市の子育て・子育ての現状と課題 『西東京市の子どもの生活と家庭の実態・意向調査 報告書』より」は、昨年度行われたアンケート調査の結果から、現段階で読み取ることができる西東京市の子育て・子育ての現状及び課題をまとめたものである。更に分析を深める必要がある部分については、この場で議論していただきたいと思う。

	<p>資料2「西東京市の子育て・子育てに関する統計」は、市が作成している統計書等から、子育て・子育てに関するデータを選んで図化したものである。掲載されている統計データの他に必要なデータがあればご指摘いただきたいと思う。</p> <p>資料3「子育て・子育てに関する西東京市の取組み」は、現在の市の施策をまとめたものである。</p> <p>資料1から資料3は、第一の議題「西東京市の子育て支援策の現状と課題の検討・整理」のために作成した資料である。資料4は第二の議題「市民交流会ほか市民参加調査の検討」のために作成した資料である。</p>
森田委員長	<p>では、第一の議題「西東京市の子育て支援策の現状と課題の検討・整理」に移らせていただく。</p> <p>前回の策定委員会では、策定委員会が中心になって子育て支援計画をすすめていくということと、作業部会が各種調査を行い、調査結果や提案等を随時策定委員会に報告していくことをご説明差し上げ、ご了解いただいた。</p> <p>どのような子育て支援計画をつくっていったらよいか考えていく上で、既存データを委員の間で共有する必要がある。</p> <p>まず、昨年度行われた「西東京市の子どもたちの生活と家庭の実態・意向調査」の中心的な結果を簡単に説明させていただきたいと思う。</p>
山領	<p>資料1「西東京市の子育て・子育ての現状と課題 『西東京市の子どもたちの生活と家庭の実態・意向調査 報告書』より」を説明する。この資料は、昨年度行われたアンケート調査の単純集計結果をまとめたものであり、クロス集計等の詳細な分析については今後行っていく予定である。</p> <p>- 資料1のP.2を読み上げる -</p> <p>P.3以降は今読み上げた結果の元となるデータである。</p>
森田委員長	<p>このアンケート調査は、子ども、子どもがいない25歳から29歳の大人、そして子どもを持つ大人の大きく分けて3つのグループを対象に行ったものである。</p> <p>今回は単純集計の結果を説明していただいたが、今後はクロス集計を行い、さらに深い分析を行う予定である。家族形態、子どもの年齢、就業形態等の違いによる意見の違い等を分析する。</p> <p>意見、質問、あるいは補足はあるか。</p>
委員全員	<p>- 意見、質問、補足なし -</p>
森田委員長	<p>単純集計だけではよく分からないことがある。例えば「『女性も子育て期に仕事をやめるべきではない』という意見について、約5割の人が肯定的である。」といっても、どのような人たちがそのように思っているのか丁寧に調べる必要がある。特に子どもの回答結果については詳しく調べる必要があると感じている。</p> <p>詳しく見てみたいクロス集計の結果があれば、ぜひご連絡いただきたい。</p> <p>次に、資料2「西東京市の子育て・子育てに関する統計」を説明する。どのようにデータを読んでいけばよいかということだけを説明させていただきたいと思う。</p> <p>西東京市の子どもの人口移動は、「2. 子どもの人口」(P.1)のグラフから読み取ることができる。例えば、平成5年時に0歳の子どもは、平成10年時には5歳になっているので、平成5年の0歳児の人口と平成10年の5歳児の人口を比較すると、平成10年の5歳児のほうが多くなっている。従って、この期間では、生まれてから市外に移る子どもよりも、生まれてから市内に移ってくる子どものほうが多いことがわかる。また、公立小学校に通っている児童の人数のデータを用いることによって、私立小学校に通っている人数を把握することもできる。</p> <p>このように、数値がものがたる家族の移動や子どもの生活の背景を統計データから読み取っていきたいと考えている。今回の資料では十分なデータがそろっているとは言えないが、全体的に言えば子どもの数が減ってきていることがわかる。</p>

	<p>「4. 未婚率」(P.2)では、20歳代から30歳代の未婚率が非常に高いことがわかる。また、男性の未婚率が高いことから、子ども施策では女性の未婚率だけでなく、男性の未婚率についても考えていく必要があるかもしれない。</p> <p>「5. 就業者(女性)の内訳」(P.2)では、内側の円が平成7年、外側の円が平成12年のデータとなっている。平成12年では就業者(女性)のうち、67.2%が主に仕事、28.1%が家事のほか仕事、3.1%が通学のかたわら仕事をしている。これら女性のうち、子育てをしている女性がどのくらいかわかると、状況をよりいっそう把握することができる。</p> <p>「8. 保育園定員数、年齢別児童数、待機状況」(P.3)の「待機児数」を見ると、現在待機児は112人いることがわかる。</p> <p>「10. 小学校数及び教員、学級、児童数」(P.4)を見ると、過去5年間で学校数も学級数もそれほど大きく減っていない。小学校の学級数は、西東京市周辺の地域と比較してどうか。</p>
有澤副委員長	<p>西東京市の場合、市内でも場所によって異なる。また、単に一戸建ての数や子どもの数だけでは考えられない。例えば企業がマンションを借りて、従業員を住まわせることがあるが、不景気の影響で企業がマンションの借り上げをやめると、急激に子どもの人数が減ることがある。西東京市の場合、都心への通勤が便利なことから、企業がマンションを借り上げていることが多いのではないかと。</p>
森田委員長	<p>統計を見ると学級数も児童数も減っているが、子どもの人数が減っていると簡単に判断するのではなく、有澤副委員長がおっしゃったようなこともあるので、ていねいに見ていく必要がある。</p> <p>学童クラブは、ほとんど満杯状態か。</p>
有澤副委員長	<p>学童クラブは、待機児童が多いと聞いている。</p>
森田委員長	<p>「14. こどもの発達センターひいらぎの利用状況」(P.4)では、グループごとの定員等が掲載されているが、掲載されているグループの活動のほかにも様々な活動が行われている。</p> <p>「15. 心身障害幼児認定手帳所持状況」(P.4)では、多くの親が自分の子どもに発達障害があるのかわからないまま、不安の中で育てていらっしゃるかわかる。</p> <p>以上のような統計データを紹介したが、ご希望の統計データがあれば事務局までご連絡いただいで、作業部会のほうで検討したいと思うがそれでよいか。</p>
委員全員	<p>- 異議なし -</p>
森田委員長	<p>次に、西東京市の取組みについて、主なものを事務局からご説明いただきたいと思う。</p>
富田課長	<p>ピッコロハウスは、主に0歳から3歳の子どもが、親と自由に遊べる乳幼児交流施設である。場所は、田無神社の隣にある4階建ての建物の3階部分である。西東京市内に住んでいる人だけでなく、近隣の地域の人にもご利用いただける施設となっている。</p> <p>保育園での園庭開放は、乳児を対象とした保育園等一部を除き、原則的に市内全園で実施している。地域の子どもたちにも開放しており、地域交流の目的もある。</p> <p>ファミリー・サポート・センターは、昨年度から始まった事業であり、地域での子育て支援を目的としている。ファミリー会員、サポート会員といて、子どもを預けたい人、預かる人の双方を契約というようなかたちをとり、システム的に結びつける事業である。実施運営は社会福祉協議会へ委託しており、サービスは有料となっている。</p> <p>病後児保育室「えくぼ」は、生後6ヵ月の乳児から小学校4年生までを対象とした事業である。例えば、治癒証明がないと保育園、幼稚園、小学校になかなか戻れないという現状がある。そのようなとき、事業を委託している「さいとう小児科内科クリニック」では別棟に2つベッドを設けており、そこで治癒を行うと同時に治癒証明が発行されるまで子どもを一時的に預かっている。サービスは有</p>

	<p>料である。現在市内でこの事業を行っているのは1箇所だけであるが、今後は数を増やしていきたいと考えている。</p> <p>保育園での一時保育は、冠婚葬祭等の理由で週3日を限度に一時的に子どもを預かる事業である。緊急一時保育は、1ヵ月まで子どもを預かる事業である。両方の事業とも有料である。</p> <p>新市建設計画(市の計画は通常総合計画と呼ばれるが、西東京市は昨年できたばかりであるため、新市建設計画が総合計画に代わるものとして存在する。)では、「子ども支援センター」と「発達支援センター」の2つの項目があるが、現在はこの2つを合わせた通称「総合センター」(仮称)という計画が1本ある。一方、「子ども家庭支援センター」だけの計画もある。これは、「総合センター」(仮称)が平成18年度からの運営開始とかなり先の計画になっており、昨今の社会状況を考えると平成18年度まで待ってられないという状況にあるため、「子ども家庭支援センター」の計画を早めに進めていくという理由による。また、「総合センター」(仮称)が立ち上がった際には、「こどもの発達センターひいらぎ」「心身障害児通所訓練施設ひよっこ」といった障害を持つ子どもの施設についてどのように取り組んでいくかを含めて今後の検討課題となっている。</p>
森田委員長	市の取組みについて質問はあるか。
武田委員	保育園の園庭開放は、本当に全園で行われているのか。
富田課長	さきほども述べたように、乳児を対象とした保育園等、実施できない保育園も一部ある。
武田委員	<p>親が付き添うこと、という条件がついている。また、利用者を見たことがない。現実的にどのくらい利用できる状況にあるのか。</p> <p>ひいらぎではどのような内容の相談が寄せられているのか。私の子どもは2人とも発達障害を持っているが、普通学級に通っており、ひいらぎに相談に行くまでもない。こういった親は多くいると思うし、障害の認知をしていない親も多いと思う。このような状況の中で、母子保健事業やひいらぎがどのように利用されているか、非常に気になる場所である。また、母子保健事業やひいらぎについて、学校がどの程度認知しているのかぜひ知りたい。</p> <p>子育て支援計画を作っていく上で、障害を持っていないながらも特別な施設に通っていない子どもを、どの程度問題として取り上げていただけるのか。</p>
森田委員長	<p>課題として色々な事柄を今後集約していきたいと思っているので、今のようなご意見を参考にしていきたい。ひいらぎについては調査が可能だと思っている。ひいらぎに通っていない障害を持つ子どもについて、事務局のほうで今わからなければ、次回事務局からご報告いただきたいと思う。</p> <p>保育園の園庭開放は、昨年の審議会のときに西原保育園を見学したときに、近所の多くのお母さんたちが利用していた。</p>
武田委員	西原保育園が立地している地域は、保育園や幼稚園、小学校等の施設が密接に立地していて、非常によい地域である。市内でも地域によって差があるのかもしれない。
森田委員長	<p>地域差も検討する必要がある。</p> <p>その他市の取組みについて何か意見や質問はあるか。</p>
委員全員	- 意見、質問なし -
森田委員長	では、第二の議題(「市民交流会ほか市民参加調査の検討」)に移らせていただく。前回の策定委員会では、策定委員会と作業部会の役割についてご説明した。今回は、それぞれの作業をどのようなスケジュールで進めていくかということについて説明したいと思う。ただし、これからご説明するスケジュールは原案であり、多少ずれてくる可能性があることをご理解いただきたい。従って、おおよそこのような形ですすめていくということをご了解いただきたい。

山領	- 配布資料4「市民交流会ほか市民参加調査の方法とスケジュール(案)」の「2.1 子ども部会」(P.1)を読み上げる -
安部	本日午前中に保谷柳沢児童館で第1回の子ども部会を開催した。小学生5名と中学生8名の合計13名が参加した。子ども部会では、子どもたちの生活実態と市の施策に対する意見を引き出していく。本日は初回だったので子どもたちどうしが仲良くなることを目的とした。明日の午前中に第2回を開く予定であり、今後のスケジュールや調査の方法を子どもたちと相談しながら決めていく予定である。子どもたちによる子どもへのインタビューや市内・市外の施設見学を行うことも考えている。
森田委員長	本日は、保谷小学校、保谷第二小学校、柳沢中学校の子どもたちが集まってくれた。私も見学に行ったが、保谷柳沢児童館に来ていた他の子どもたちが興味深そうに見ていた。私の大学のゼミ生も参加し、子どもの安全に留意しながら安部さんをサポートした。 子ども部会に関しては、あまり多くの大人が見学に行くのはよくないと思う。例えば祭りの際に子どもたちがインタビューしている姿をそっと見る程度はよいと思う。子どもたちがインタビューをしているということが、何らかの形でわかるようにしたい。
山領	- 配布資料4「市民交流会ほか市民参加調査の方法とスケジュール(案)」の「2.2 子育て支援団体へのヒアリング」(P.1 - P.2)を読み上げる -
森田委員長	この調査は出川委員が中心となって進める。出川委員から補足していただきたい。
出川委員	子育て機関の利用者に対するヒアリングは、利用している場所や活動場所に直接伺い、参加している活動の魅力、活動の問題点、活動の提案等を聞く予定である。 子育てを支援している機関の職員に対するヒアリングは、事前に調査シートに記入・提出いただいた後、こちらから訪問して話を聞く予定である。 子育て支援の活動をしている民間の方に対するヒアリングは、事前に調査シートに記入・提出いただいた後、場所を数日設定してヒアリングを行う予定である。ヒアリングの対象は検討中なので、委員の皆様以案を出していただきたい。
森田委員長	アンケート調査を補強する際、アンケート調査で埋もれてしまっているような少数グループの意見をとり入れることと、全ての子どもについてあてはまる普遍的な意見や課題をおさえることが重要である。そのような補強をするためにはどのようなところにヒアリングするとよいか考えることが大切である。情報や意見があれば、作業部会に申し出ていただきたい。 子育て支援団体へのヒアリングでは、こちらから出向いて行うヒアリング、来ていただいて行うヒアリングの2通りの方法で行う。ヒアリング対象者は子育て支援に関するサービスを利用している人、子育て支援を仕事として行っている人、子育て支援をボランティアで行っている人の3種類を考えている。 例えばPTAの場合、総会のような会があるときにこちらから出向いてヒアリングを行うのがいいか、それとも意見をまとめていただくのがいいか。
有澤副委員長	PTA 総会は年度のはじめにしか開催されないし、総会で意見を聞いても本音を聞くことができるとは限らない。PTA の話を聞きたいのであれば、数名の役員に集まってもらおうとよいのではないかと。西東京市は現在PTA 連合会がなく、PTA をつくっていない学校もある。P 保連というのがあり、これはPTA がない学校の保護者の方々も含めた連絡会のようなものである。
本間委員	直接学校に行って話を聞くほうが、本音を聞き易いのではないかと。
森田委員長	全ての学校に行ってヒアリングを行うのは無理なので、いくつか学校を決める必要がある。

有澤副委員長	学校で聞くと、専業主婦の方や働きながら子育てをしている方など色々な人から意見を聞くことができるのではないかと。
森田委員長	学校でヒアリングをする場合、夜がいいのか、土曜日や日曜日がいいのか。例えば運営委員会はどの曜日に開かれているか。
武田委員	学校によって異なるが、たいてい平日の午後に開かれる。
本間委員、古荘委員	土曜日に開かれる学校もある。
森田委員長	土曜日に運営委員会を開いていて、話を聞けそうな学校でヒアリングを行うのはどうか。意見をまとめていただくのではなく、実情を聞かせてもらったかどうか。
本間委員	児童館の0歳児を対象にした催しや、幼児サークルには親子連れて来ていることが多いので、子育て機関の利用者に対するヒアリングのところでヒアリングをするとよいと思う。
森田委員長	子育て支援団体へのヒアリングはこのようなかたちで進めていこうと考えていたが、子育てをしていない大人がヒアリングの対象になっていないことに気付いた。西東京市で20歳代の人たちが集まっているような場所はあるか。
富田課長	スポーツセンターに集まっている。
森田委員長	例えば片山委員の大学に行ってヒアリングを行うのはいかがか。
片山委員	私は西東京市に住んでいないので西東京市についてあまり詳しくないが、大学に来ていただいてヒアリングを行っていただくのは構わない。
森田委員長	子どもでも親でもない若い人たちに対する調査については、今後検討していきたい。 次に、庁内ヒアリングについて説明いただきたい。
山領	- 配布資料4「市民交流会ほか市民参加調査の方法とスケジュール(案)」の「2.3 庁内ヒアリング」(P.2 - P.3)を読み上げる -
森田委員長	策定委員会では最終的に市長に答申を提出することになるが、その際に庁内の意見や庁内検討会等との調整をどのように行うか考える必要がある。このことを念頭におきながら庁内ヒアリングを行う必要がある。 作業部会での各種調査について、質問や意見はあるか。
安藤委員	子ども部会についてだが、本日集まった13人の子どもたちを中心に今後も進めていくのか。
森田委員	本日集まった子どもたちを中心に今後も進めていくが、早い段階で参加を希望する子どもがいる場合には受け入れるようにする。
安藤委員	子育て機関の利用者に対するヒアリング調査についてだが、日曜日に行くと父親から話しを聞くことができるかもしれない。
森田委員長	他に意見や質問がなければ市民交流会の説明に入る。市民交流会は作業部会ではなく、策定委員会が主催するものである。
山領	- 配布資料4「市民交流会ほか市民参加調査の方法とスケジュール(案)」の「1. 市民交流会」(P.1)を読み上げる -

森田委員長	市民交流会は、今年度の子育て支援計画策定委員会の活動について市民の方々にお知らせすることと、子育て支援計画について市民の方々の考えを聞かせていただくことを目的として開催する。
高屋	3回の市民交流会を提案したのは、西東京市は南北の交通が不便であるため旧保谷市と旧田無市で1回ずつ開催すると参加する人にとって便利ということと、今回の策定委員に多くの方が応募されたので、その方たちの意見を聞く機会を別に1回設けたという理由による。
有澤副委員長	市民交流会を策定委員会にあわせて開催するというのは、どういう意味か。
森田委員	市民交流会と策定委員会を同じ日に開催するという意味である。市民交流会を開き、その後策定委員会を開き、市民交流会で出された意見等について話し合うということである。
古荘委員	どういう形で市民交流会は行われるのか。
森田委員	策定委員はどこか一箇所にまとまって並ぶことになるのではないかと話が進まないのと、例えばアンケート調査の結果を手掛かりにし、アンケート結果についてご意見をくださいと広報したり、西東京市の子育てや子育ての実態について話し合いをしましょうと広報したりということが考えられる。場所をあらかじめ決めて開催するが、何人集まるかわからないので、ある程度融通のきく場所を用意する。
有澤副委員長	市民の方々を広く招くということだが、関心を示していただけかどうか疑問である。
森田委員長	今までの経験から、10名程度は出席いただけと思う。
本間委員	テーマを出したほうがいいのではないかと。
有澤副委員長	ポスターも利用するのか。
森田委員長	広報やパンフレットなども活用する。 3回目の市民交流会として、策定委員に応募された人を招くことについて意見はあるか。
古荘委員	私の友人も策定委員に応募した。策定委員に応募された方々は、やはり多くの意見を持っていると思う。
武田委員	年間のスケジュールの中で6回の策定委員会が開催されるわけだが、その中で市民交流会が3回というのは、回数として多すぎないか。策定委員に応募された方々も1回目と2回目の市民交流会に招待し、市民交流会を2回とすることも考えられる。
森田委員長	今年度は計画をつくる年ではなく、課題を焦点化する年である。第5回策定委員会までは作業部会での調査結果や資料を集めていく作業になる。
武田委員	課題の焦点化は最終回の策定委員会だけでできるのか。
森田委員長	最後の1回だけで議論できると思う。
武田委員	それであれば市民交流会をていねいに行うことに異議はない。
川又委員	策定委員に応募していただいた方々の意見をお聞きしておくことは大事なことだと思う。

森田委員長	<p>策定委員に応募された方々を招待して開く市民交流会は、開催時期を遅く設定することも考えられる。たくさんの意見を持っていらっしゃる方々の話を聞くためには、作業部会から色々な調査結果が出て、策定委員会としてご意見を聞く準備をする必要があるかもしれない。</p> <p>第1回と第2回の市民交流会は作業部会での各調査と時期を並行して開催し、策定委員会に応募された方々を対象とする第3回の市民交流会は11月の後半に開催するというのはいかがか。</p>
富田課長	<p>策定委員に応募いただいたときに、応募者全員から意見や提案を作文として頂いている。</p>
森田委員長	<p>策定委員に応募された人々を対象とする第3回市民交流会は、作業部会から調査結果が出て、策定委員会として意見を聞く体制が整ってから、11月末から12月に開催する。策定委員会であらかじめテーマを決めておいて、そのテーマに沿って意見を述べていただくようにする。そのテーマは、応募された方々の作文をもとに決める。このように提案するがいかがか。</p>
委員全員	- 異議なし -
森田委員長	そのほか市民交流会について意見、質問はあるか。
委員全員	- 意見、質問なし -
森田委員長	残り時間が少なくなってきたが、ほかに意見等あるか。
委員全員	- 意見等なし -
森田委員長	<p>次回以降の日程を決めたいと思う。作業部会の日程や活動内容については、事務局のほうから連絡させていただく。</p> <p>閉会宣言</p> <p>- 次回以降の日程 -</p> <p>第3回 9月28日(土) 午後1時から午後3時まで(市民交流会) 午後3時から午後4時まで(策定委員会)</p> <p>第4回 10月20日(日) 午後1時から午後3時まで(市民交流会) 午後3時から午後4時まで(策定委員会)</p> <p>第5回 11月29日(金) 午後1時から午後3時まで(市民交流会) 午後3時から午後4時まで(策定委員会)</p> <p>第6回 2月(日・時間未定)</p>